

## 〔6〕授業づくりに取り組んで

我々は、中学部の生徒にコミュニケーションの力を育てる授業づくりに、遅々とした歩みではある日々取り組んできた。ここで、授業づくりの実践を振り返ってみたい。

### (1) 単元や題材の設定及びその配置

生活単元学習では、72頁に詳しく述べたように、毎年単元や題材の見直しを行い、設定してきた。年度のどの位置にどの単元を持ってくるか、学級から学部へと活動の場を拡げるのはどの位置がよいのか等、悩みながら、組みかえを行ってきた。また、題材については、以前より、活動内容を絞ってじっくりと生徒に話し合わせながら進め、コミュニケーションを豊富に展開しようと努めるようになった。

また、校内で活動の場を拡げていくのと同時に、校外の人々とのコミュニケーションの拡がりも意識した単元構成に努めた。1学期は、校外学習・修学旅行で出会う人との関わり、2学期は、大山宿泊学習で出会う人との関わり、3学期は、研究発表会に来られるお客様や交流校の友だちとの関わりという様に組んでいった。このことにより、初めて出会う人とでも楽しんで関わろうとする姿が見られるようになった。社会化をめざす中学部にとり、大切なことだと考える。

課題学習や朝の会では、この3年間試行錯誤しながら、取り組みについて考え、日々の繰り返しを大切にしながら現在の形に落ち着いた。個に応じた課題に毎日取り組んだり、日記の発表や応答の仕方を繰り返し学ぶことは、コミュニケーションの力をつけることにつながった。

### (2) 指導者の関わり方

中学部では、指導者も生徒の仲間の一人として授業の中で一緒に楽しんで活動する立場をとりたい、また、生徒の活動の様子をよく見守り適切な援助をしていく姿勢を大切にしたい、ということを通理理解し、そのように努めてきた。さらに、学級や学級を解いた縦割りグループの実態、リーダーとなる生徒の力等に応じて、指導者は関わり方を考え調整していく必要があった。

#### 例1 「キャンプ」

1年生 — 自分の意思を表しにくい生徒が多い上初めての経験でもあり、指導者の援助が必要。

2年生 — 昨年度の経験をもとに話し合えるが、自閉症の生徒が多く分かりやすい発問が必要。

3年生 — 経験や自分のイメージをもとに主張する生徒が多く、要所で話し合いの整理が必要。

#### 例2 「大山宿泊学習」

赤班 — 話し合い活動をかなり生徒の手で進められた。指導者は最終段階での押さえをした。

黄班 — パターンの決まった話し合いではリーダーが前面に出たが、それ以外は援助を要した。

緑班 — 内容が難しくなると、選択肢の準備や分かりやすい発問にかえて与えることが必要。

### (3) 個を生かす指導の工夫

それぞれの学習において個を生かせるよう多様なグループ編成の工夫を続けているが、どの組み合わせにも一長一短があり、悩みながら組みかえているのが実情である。この様々なグループでの学習は生徒により刺激を与え、学年の壁のない仲間づくりができていった。

また、グループや個人に応じたためあてを持たせ、掲示したり学習時に意識させたりすることにより、目的意識を持って生活する生徒を育てた。

授業を進めるにあたっては、何よりもやりとりのできる場面設定をすることに努めた。そのためには、特に次のような配慮や手だてが効果的であった。

- ・緊張しないで自然に話せるような雰囲気づくりをする。
- ・一人ひとりの生徒の思いを出させ、大切に扱う。(可能な生徒には理由もつけ加えさせる。必要な生徒には選択肢を準備し答えさせる。)
- ・多様な生徒それぞれが生き生きと活動できるように、話し合いと活動場面を適度に組み合わせる。
- ・必要に応じて2～3人の小グループでの活動を取り入れ、のびのびと活動させる。
- ・励ましの声かけを適切に指導者がしたり、友だちにさせたりする。

そして、教材・教具の工夫も、生徒の理解を助けたり意欲を高めたりする上で欠かせないものであることを痛感した。日程表、地図、写真、絵カード、ビデオ、氏名を記入したマグネット片、選択肢等の工夫を心がけた。

個を生かすためには、自分づくりの段階や障害も配慮しての指導が必要である。中学部では次のようなグループで生徒を把握し、事例研究もこのグループを意識しながら進めたが、それによって指導の方向がつかめ般化に役立った。

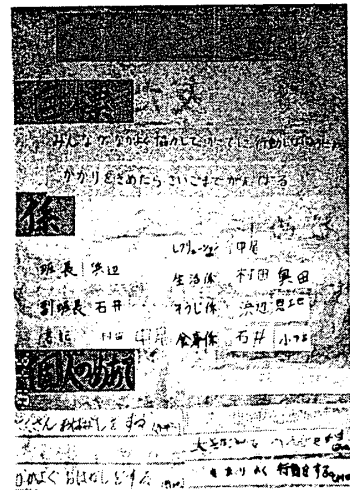
- 自己客観視の芽生え・確立段階の生徒(7名)
- 自制心の形成段階の生徒(5名)
- 自我の充実・拡大、自制心の芽生え段階の生徒(3名)
- 自閉的傾向、自閉症の生徒(6名)

#### (4) 家庭との連携

右に示す資料は、大山宿泊学習の行事が終わった日に、家庭で書き込んでもらい、次の日のまとめの学習に利用したH子の土産話である。このメモをもとに、教師はH子から発言を引き出すことができた。このように、学校や家庭の様子を知らせ合い連携に努めてきた。

1. **みやげ話の内容**  
 ・元来コースターではこのお祭りではお祭りにはいかなかった。  
 ・大山で自分の好きなみやげ物をお母さんの好きなみやげ物を買った。  
 ・夕食の前にお風呂に入った。夕食はおまんこだった。コンニャクを食べた。  
 ・トビヤで夜場ではおまじに追い出された。おまじを手でついて小屋の上においた。小屋や小舟もいた。  
 ・お風呂は焼豆腐を食べた。  
 ・とても楽しかった。

2. **感想** 帰宅第一は「楽しかったよ」でした。いろいろたずねてもなかなか話してくれなかった。断片的に話してくれました。海ではおまじのみやげ物を動かして遊んでいました。満足……2日間だったようぞう。



班の計画表

家庭によっては協力が得にくかったり意図が上手に伝わらなかったりすることもあるが、今後も粘り強く働きかけていきたい。